

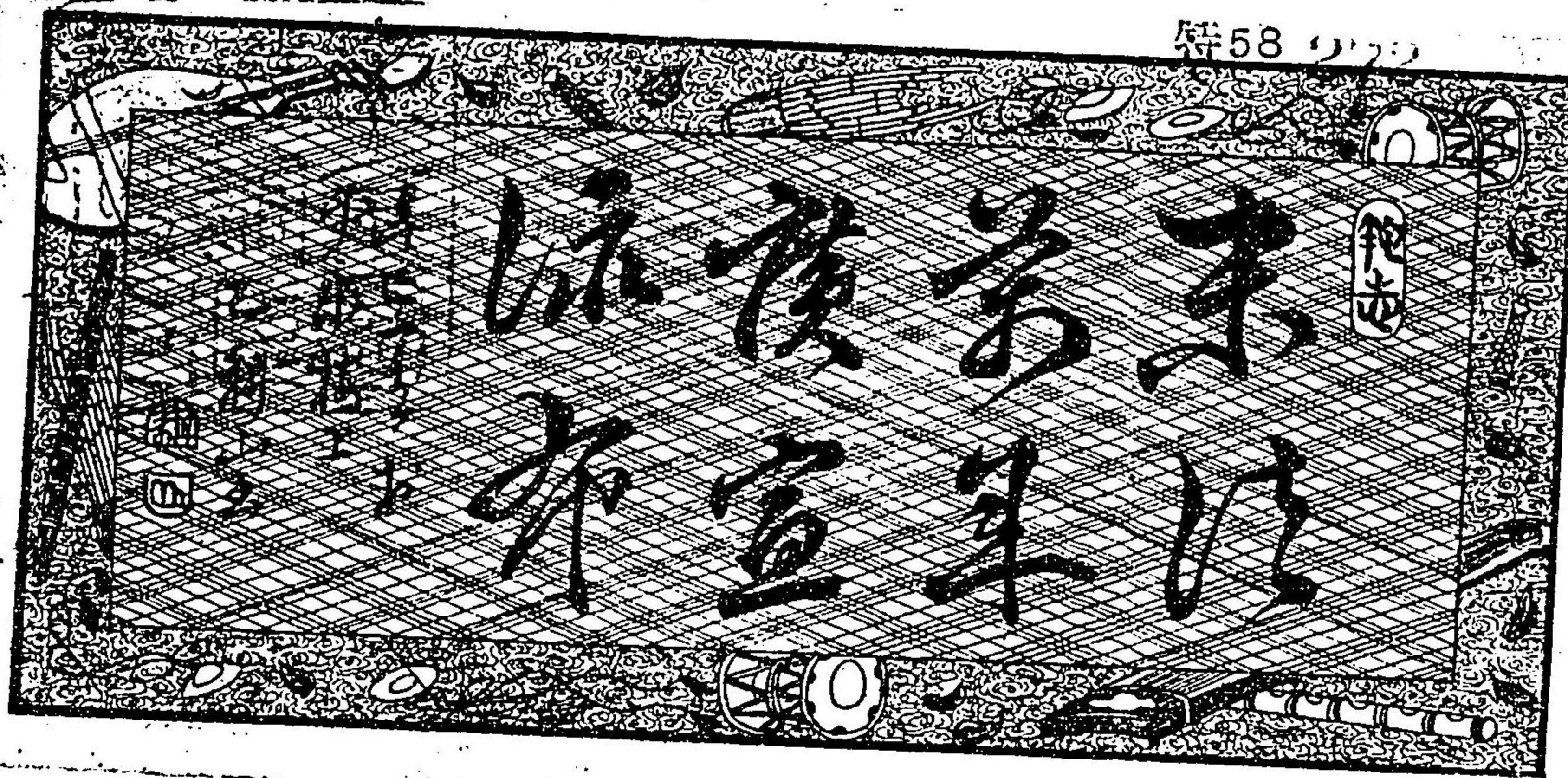
懷本高乘記  
中化祖伏

末法  
第一  
廣宣  
派亦

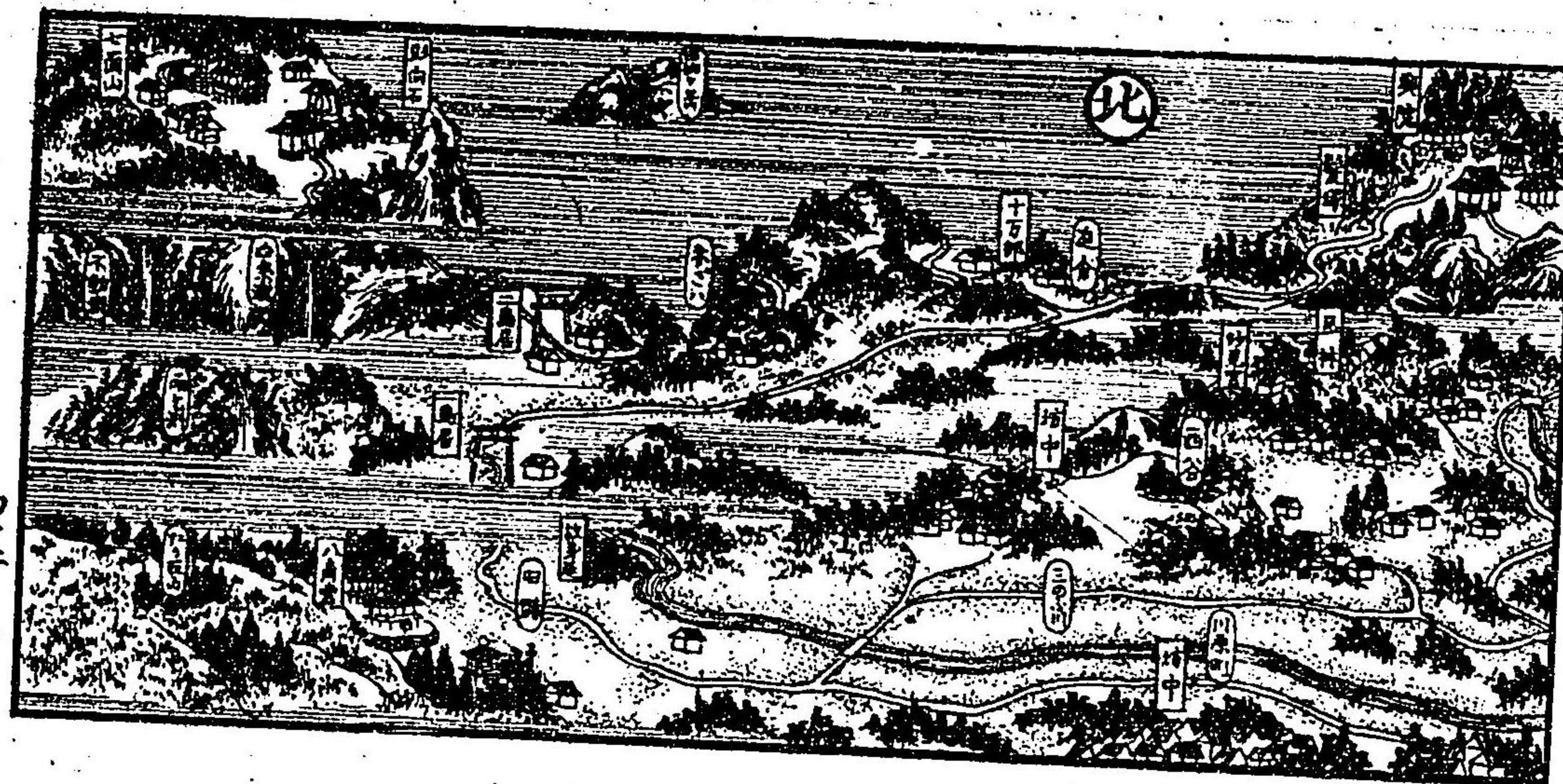
奉  
乙  
耕  
山  
主

乙  
耕  
山  
主

記

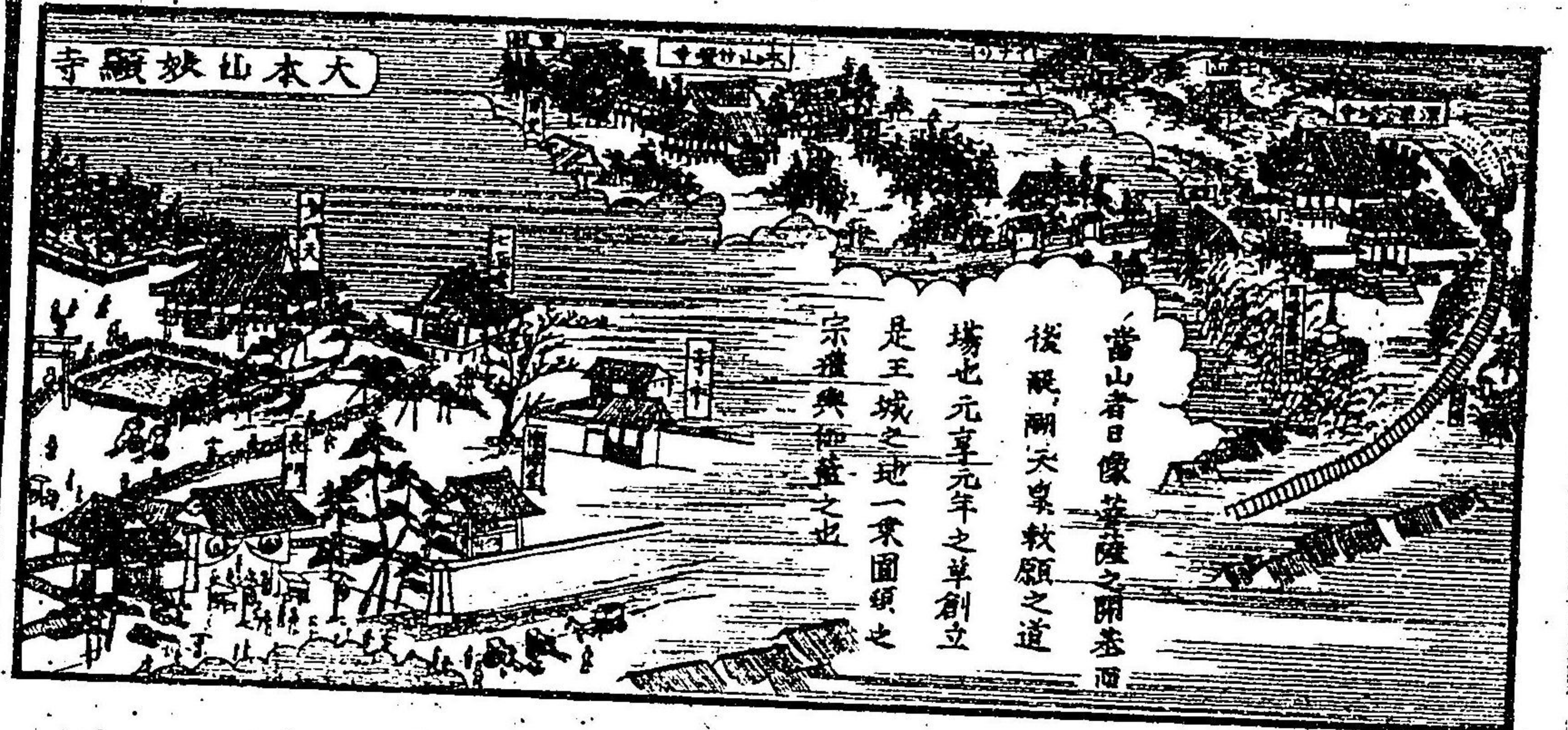


懷本高祖  
中代乘記





大會之圖



大本山敷顯寺

當山者日像菩薩之開基而  
 後醍醐天皇敕願之道  
 場也元享元年之草創立  
 是王城之地一東園額也  
 宗權與師益之也



目錄

○ 總本山身延山之圖	〇二丁
○ 妙顯寺大會之圖	〇三丁
○ 本國寺大會之圖	〇三丁
○ 佛法傳來之事	二丁
○ 一切經の濫觴	三丁
○ 日本佛像之始	四丁
○ 四箇之大寺	全
○ 南都七大寺	全
○ 九如藍太子御建立	全
○ 八宗之事	全
○ 妙見尊之事	五丁
○ 清正公之事	七丁
○ 注古寺院之事	八丁
○ 日蓮大士御系圖	九丁
○ 同 年代記	十丁
○ 上足老尊者畧傳	三三丁
○ 中老十八人畧記	三三丁
○ 九老僧畧記	三三丁
○ 優婆塞畧記	三六丁
○ 諸山大德上人畧記	三九丁
○ 隱道人名畧記	四三丁
○ 日與上人門人	四四丁
○ 日持上人門人	四四丁
○ 支那比丘尼貴賤信者略記	四八丁
○ 諸府縣下寺院之大概	四八丁
目錄畢	四八丁

中本化高祖年代記

故 宇喜田小十郎編輯  
乙 葉俊次郎訂正

凡例

此書は佛法天竺より後  
漢の渡りし始る又經籍  
佛像及び火葬寺院の盛  
衰を述ぶ全部八巻あり  
普く諸宗の開祖誕生よ  
り遷化ふる古今の年  
曆を僅く明治中迄幾年

古事記

自由舟理と  
幼童女子の見易  
高祖年代記の著書

是世にまじり行儀と雖も  
 火災のらまひ小雁王失入  
 依り今新に集る衆生  
 説教聴聞の助りありん  
 と其徳を拾欠くる  
 を補御誕生よき百廿三  
 年の間つ要説を挙  
 高祖の御弟子六老中老  
 九老及び廿三人の直授は  
 御弟子其外大徳優婆塞  
 比丘尼上の宮女内室下の  
 民俗よきお追我宗帰依  
 の輩九百三十三人其  
 姓氏略傳を加ふ  
 諸本山檀林大寺靈場の  
 由諸に其國々を別り未

の丁は海と界の扱とさう  
 故に文義の略を各むる  
 と解れ

一高祖の御傳記ハ既に流布  
 の書数多ありといへどもその  
 年記を索むる小迂延ある  
 が故其年度を早く見出し  
 の為著したれの説教者ハ  
 勿論宗化帰依の輩の便  
 利不備ふ矣

明治十四年一月

訂正者誌

抑佛法天竺より漢土に  
 渡り後漢の明帝永平十  
 年摩騰法蘭より聖佛  
 經を白馬に馱りて持來り  
 明帝喜て鴻臚寺に客  
 館を置其翌年雒陽  
 城の西廂門の外に精舎を  
 建て此に置る仏の倚像  
 經文を白馬小乘未だ故  
 白馬寺といふ名付たり其  
 所謂を以て今に至る  
 遠寺本門寺本園寺大  
 石寺杯と寺の字を用ひ  
 とり又精舎伽藍道場  
 其外種々の名目皆寺の  
 事也巨細の諸書出たれば

新羅の聖王此時日本十  
 一代 垂仁天皇の御宇  
 小高はあそ 明治十四年と  
 年よつとほ

○一切經の盤勝

梁の傳大士名ハ翁字ハ  
 玄風亦善慧大士と號  
 又東陽大士と号と嘗て  
 十六才少く劉氏と娶  
 り二人の子を産普成普  
 建といふ或時大士は影  
 水にけり照を觀る圓  
 光宝蓋を見了普建指し  
 普成是を親咲と感る  
 おもふと仏祖統紀は曰東陽  
 郡烏傷縣の雙林寺と云



寺に住居し、又普大士の考一切經の目錄多し、箱と八百餘の中柱を建、自由弁理、名はけ末世に残、是和漢供、經藏、經を入、是を廻、徳に成、云傳、今、至、經庫を造、必、傳大士、二人の童子の像を安置、世俗、笑佛、大士、四月、廿七日、日本、列、

○日本佛像の始  
 同欽明帝十四年癸酉五月河内國上宮奏、

靈木玲瓏、遂小佛像二軀、作、給、是、始、今吉野寺、在、所、の、真、像、是、を、明、治、十、四、年、と、千、三、百、二、十、九、年、と、

○四箇の大寺  
 東大寺、興福寺、延暦寺、園城寺、

○南都七大寺  
 西大寺、招提寺、

薬師寺

大徳寺 二寺

法隆寺

法隆寺 太子の御心立

大安寺

大安寺 太子の御心立

興福寺

興福寺 太子の御心立

東大寺

東大寺 太子の御心立

○九加藍太子御建立

四天王寺

法隆寺

元興寺

中宮寺

福寺

蜂岡寺

池後寺

妙安寺

日向寺

○八宗

三論

中宗 十二門論

法相

法相宗 唯識論

俱舍

俱舍論

成實

成實論

律

律宗 四分律

華嚴

華嚴宗 華嚴經

天台

天台宗 天台經

真言

真言宗 真言經

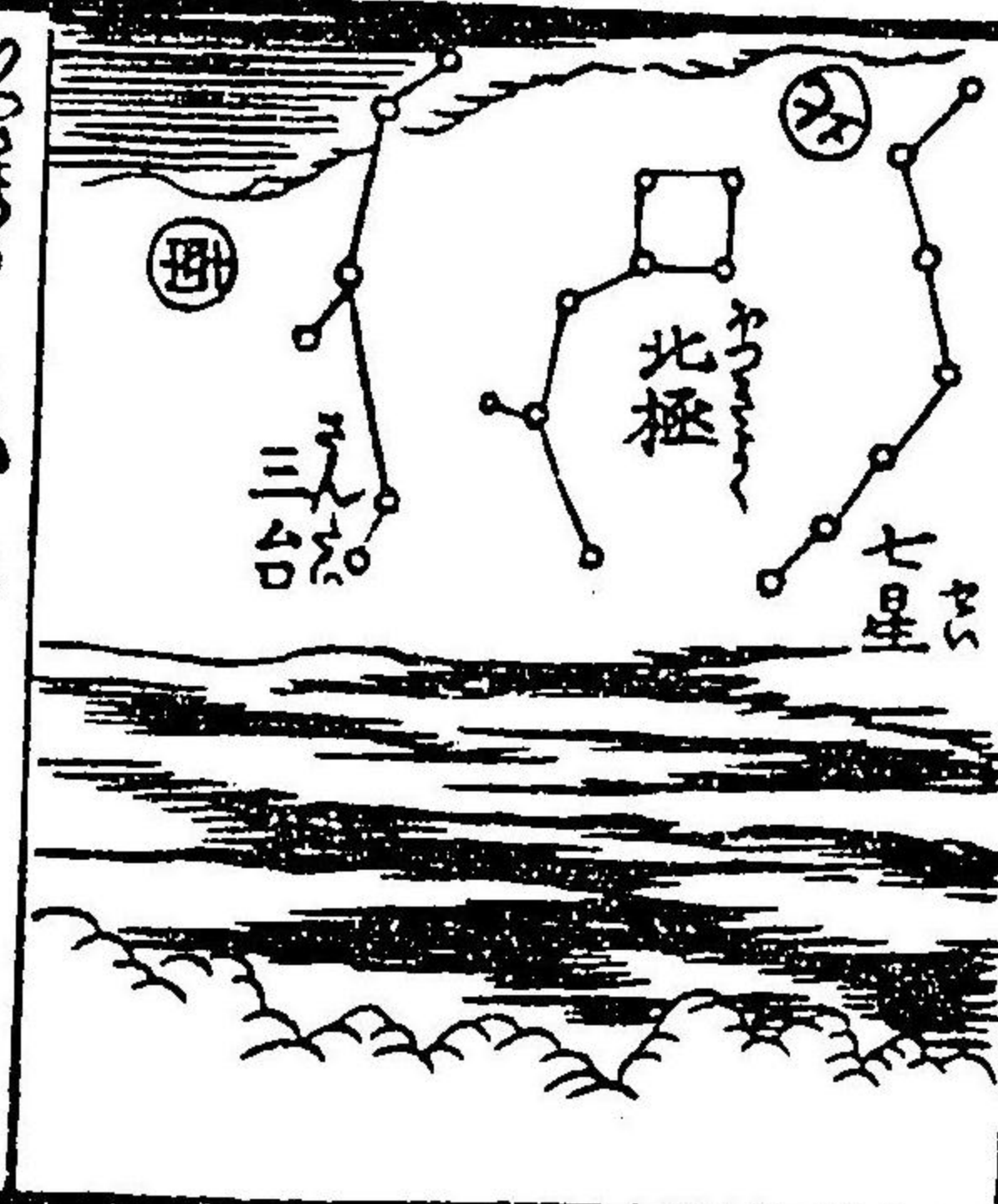
己上

日蓮宗

日蓮宗 法華經

日本中本山大権林

日本中本山大権林



北極の帝居ちる三台の  
 三公あり七星ハ七弁也  
 情ら按ゆる七弁ハ北斗  
 夫神儒佛其稱名異しく  
 雖も皆一仏一體なり

陰徳長命及び福壽閑運  
 主の七星也抑此七星  
 北辰を奈ゆる先心外迷  
 を更更深く一心小信心  
 積む諸くの願一とせし  
 成就せしむるなり  
 又一切の藝術天下の譽  
 名は發するは皆北辰の  
 恵に給ふ處也昔漢土に  
 管輅と云博識大才の人  
 あり或時趙顔と云る人  
 の相を記して十九支にて早世  
 相あり此と不便と思北斗  
 の神に趙顔と遣し祈ら  
 りしに九十九支の壽を保  
 てるを其外王公名醫

北斗の符を以て人の病  
 を助けてあまは是錦褒  
 録よ見るとこそ又竊よ云ん  
 本朝正月一日主上属星を  
 唱へ天地四方拜とり  
 あり御属星の北斗七星  
 あり北斗の論語小北  
 辰といふしこれか北辰妙  
 見を祈り災難を除必  
 とも兩運福を得と疑ふ  
 故に猶も信心弘励を妙  
 法の極理をあらわす  
 一六塵忘念の雲晴普く  
 利益を得て海の底まで  
 和漢よ北辰の利益受る  
 者奉て筆をた暇あらず

淨池院殿清正公大神儀



肥後の大守加藤從四位  
 下侍從清正朝臣其先  
 大職冠の後裔武藏守利  
 仁將軍の末孫ひらき弘  
 治元年乙卯産天性大器  
 ひて古今獨歩の五將

あり既に永禄十二年歳  
 十五女に越の金が崎  
 よる初陳四國九州數度  
 の合戦は勝利得ると云  
 又文禄中朝鮮必  
 又到て英雄高名を異國  
 に顕し向ふ處の軍破ぞ  
 一代の勲功  
 悉く挙げゆ違あ  
 此尊像を信心をせむば  
 事以勝利諸願成就と云  
 今肥後小幡本本地に  
 安置し自他宗共に信心  
 日お坊盛みし群系夥  
 其傳高祖繪傳ははま  
 びく証故さるに畧を

○昔の寺々 寺像の六

- 向原寺 大和のふ小幡田
- 四天王寺 大坂太子のふんま
- 元興寺 新おたるのふんま
- 大安寺 西のふんま
- 頂法寺 十八のふんま
- 禅林寺 大和のふんま
- 犬寺 大和のふんま
- 崇福寺 天智のふんま
- 興福寺 大和のふんま
- 神願寺 大和のふんま
- 長谷寺 大和のふんま
- 東大寺 大和のふんま
- 石山寺 大和のふんま
- 葛木尼寺 大和のふんま
- 鵜田寺 大和のふんま

招提寺

善於十七大寺の内

西大寺

大唐のくしん相く

粉川寺

日七大寺の内四十六

神護寺

九寺の内ちりりぐら

慈氏寺

多那たると必希ち

村岡寺

記しつるものさう

勝尾寺

大寺のふにあり

鞍馬寺

せしつたてまへのねお

清水寺

あつてうのつりいん

三王院

まがねのねをよ

園城寺

といへ

貞観寺

日あつていんハ坂の上

感應寺

さるせんまふり

圓教寺

いしつちいん

蟹満寺

いしつちいん

以上三十箇寺 尺書ノ廿八

日蓮大聖人御系圖正脈

天兒屋根命

天押雲命

天種子命

二十二代 春日大明神の御末

大織冠鎌足

内大臣正二位

不比等

正二位右大臣

房前

北家の祖 中衛大将

真柁

大納言 内麻呂

冬嗣

從二位左大臣

冬嗣

政院の大臣と稱ス

忠仁公

攝政の始

昭宣公

実白の始

良門

内舎人正  
中納言

利基

定文

定於

高藤

内大臣正二位

胤子

勸修寺祖  
贈太政大臣正二位

利世

二位中将

其良

大納言

良春

正五位

三國氏祖

三國右三少将

良宗

足五位准后

其資

備中守足五位

井伊家

の元祖 志保の佐

共保

補中太守足五位

傳

遠州柳村に始る住

一條院の寺にありて井伊谷

八幡宮社のかたにありて井の中

より出現の人其井のや

より保の木のありて由り

共家

備中次郎

備神守

惟直

井伊新太

盛直

政直

貫名四郎

冠十九代高祖上人の祖

行直

重直 貫名 太郎

重實 五郎  
重友 六郎

重忠 貫名次郎  
高祖大聖人の所父

重政

其早世

重仲 仲三

善日麻呂或は是生  
大織冠二十二代正商の後

自ら日蓮と名のり給ふ  
神野村又ハ村千代

系氏の女を  
重友 藤平 藤平と云ふ  
氏より今上孫の  
子孫あり

御系脈之終

貞應元年 明治十四年  
六百六十年



高祖二年二月十日午  
のちのち市川村小  
みまのいそとせし  
いすの所はせし  
日九と云ふ  
人王八十五代法堀  
川市の所はせし  
らつ村のいそとせし  
んれいそとせし  
綴るいそとせし  
二千七百七十年  
人皇のちのち  
五百八十八百  
八十二年  
いせの内はせし  
千二百六十六年

所父重忠ク仁  
三年五月廿三日  
十二代と云ふ  
ふまのいそとせし  
はせし  
而母村千代の  
あはれと云ふ  
あはれと云ふ  
かつと云ふ  
ねいそとせし  
すいそとせし  
測久四年月  
あはれと云ふ  
ハ船村  
五年〇名細の  
大徳と云ふ  
千二百六十六年



明治十四年と六百五十九年

二

二年〇未癸

六月廿六日... 高祖の代の内は...

六月廿六日... 高祖の代の内は...

元

三年〇申甲

四月廿八日... 六月十三日...

二月廿九日... 八月十三日...

明治十四年と六百五十七年

嘉加禄

四年〇酉乙

二月廿日... 六月大い...

九月廿八日... 十一月...

五年〇戌丙

七月廿九日... 八月廿九日...

去る年九月十日... 八月廿九日...

五年〇戌丙

去る年九月十日... 八月廿九日...

去る年九月十日... 八月廿九日...

明治十四年と六百五十五年の  
安貞

四月廿七日  
公使大石公清  
公使がみ十三

六月廿七日  
二男がみ十三  
三男がみ十三

四月廿七日  
泉涌ち俊彦  
六十二才合掌  
一七化け  
三月廿日の夜

三月廿七日  
田村のしん  
入るよはるの  
入るよはるの

二月十九日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

三月九日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

四月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

七月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

八月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

九月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

十月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

十一月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

十二月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

一月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

二月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

三月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

明治十四年と六百五十五年の

寛喜 八年庚寅

三月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

四月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

五月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

六月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

七月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

八月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

二 庚寅 九年

九月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

十月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

十一月廿七日  
入るよはるの  
入るよはるの  
入るよはるの

明治十四年と六百五十二年のしるし

三		十年卯年		貞水		一十年辰年	
十月二十日	十月二十日	十月二十日	十月二十日	十月二十日	十月二十日	十月二十日	十月二十日
...	...	...	...	...	...	...	...

明治十四年と六百四十九年のしるし

天福		二十年巳年		文曆		二十年午年	
四月十日	四月十日	四月十日	四月十日	四月十日	四月十日	四月十日	四月十日
...	...	...	...	...	...	...	...

明治十四年と六百四十七年

嘉禎

西月

三月廿九日

十月廿九日

二月廿九日

十一月廿九日

一月廿九日

十月廿九日

十二月廿九日

十一月廿九日

十一月廿九日

十月廿九日

十月廿九日

九月廿九日

九月廿九日

八月廿九日

八月廿九日

七月廿九日

七月廿九日

六月廿九日

六月廿九日

五月廿九日

五月廿九日

四月廿九日

四月廿九日

三月廿九日

五十年庚申丙二

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

六十年庚酉丁三

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

七十年庚戌

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

曆仁

七十年庚戌

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

三月廿九日  
四月廿九日  
五月廿九日  
六月廿九日  
七月廿九日  
八月廿九日  
九月廿九日  
十月廿九日  
十一月廿九日  
十二月廿九日

明治十四年と六百四十三年

延應 四月六日 延應 今年あつちこ

三月十日 延應 人まふあめをい

二月十日 延應 なるのいけり

二月十日 延應 用いし一

二月十日 延應 文山のあ

二月十日 延應 けちあつちあ

二月十日 延應 魚梅子のあ

二月十日 延應 とうてあつち

二月十日 延應 云いあつちあ

二月十日 延應 ねんあつち

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 ちらひあつち

二月十日 延應 大いあつち

二月十日 延應 七月十日 延

二月十日 延應 八月十日 延

二月十日 延應 九月十日 延

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 十一月十日 延

二月十日 延應 十二月十日 延

八十年庚子

仁治

二月十日 延應 延應 今年あつちこ

二月十日 延應 人まふあめをい

二月十日 延應 なるのいけり

二月十日 延應 用いし一

二月十日 延應 文山のあ

二月十日 延應 けちあつちあ

二月十日 延應 魚梅子のあ

二月十日 延應 とうてあつち

二月十日 延應 云いあつちあ

二月十日 延應 ねんあつち

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 ちらひあつち

二月十日 延應 大いあつち

二月十日 延應 七月十日 延

二月十日 延應 八月十日 延

二月十日 延應 九月十日 延

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 十一月十日 延

二月十日 延應 十二月十日 延

二月十日 延應 正月十日 延

二月十日 延應 二月十日 延

二月十日 延應 三月十日 延

二月十日 延應 四月十日 延

二月十日 延應 五月十日 延

二月十日 延應 六月十日 延

二月十日 延應 七月十日 延

二月十日 延應 八月十日 延

二月十日 延應 九月十日 延

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 十一月十日 延

二月十日 延應 十二月十日 延

二月十日 延應 正月十日 延

二月十日 延應 二月十日 延

二月十日 延應 三月十日 延

廿年庚子

明治十四年と六百四十一年

二月十日 延應 延應 今年あつちこ

二月十日 延應 人まふあめをい

二月十日 延應 なるのいけり

二月十日 延應 用いし一

二月十日 延應 文山のあ

二月十日 延應 けちあつちあ

二月十日 延應 魚梅子のあ

二月十日 延應 とうてあつち

二月十日 延應 云いあつちあ

二月十日 延應 ねんあつち

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 ちらひあつち

二月十日 延應 大いあつち

二月十日 延應 七月十日 延

二月十日 延應 八月十日 延

二月十日 延應 九月十日 延

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 十一月十日 延

二月十日 延應 十二月十日 延

二月十日 延應 正月十日 延

二月十日 延應 二月十日 延

二月十日 延應 三月十日 延

二月十日 延應 四月十日 延

二月十日 延應 五月十日 延

廿年壬寅

二月十日 延應 延應 今年あつちこ

二月十日 延應 人まふあめをい

二月十日 延應 なるのいけり

二月十日 延應 用いし一

二月十日 延應 文山のあ

二月十日 延應 けちあつちあ

二月十日 延應 魚梅子のあ

二月十日 延應 とうてあつち

二月十日 延應 云いあつちあ

二月十日 延應 ねんあつち

二月十日 延應 十月十日 延

二月十日 延應 ちらひあつち

二月十日 延應 大いあつち

二月十日 延應 七月十日 延

二月十日 延應 八月十日 延

明治十四年と六日三十九年といふ

寛元仁治四年二月

廿五日

去年十二月

松本より

山崎の

天合

今年

四月八日

二代目

生目

人生

二升年所〇卯癸

七月

六月十六日

十二月

八丈余

一日

く

く

二

二月

二月十八日

二月

年

四月

ある

四月

の

四月

り

四月

四月

四月

六月

四月

う

四月

三升年所〇辰甲

四月

四月

明治十四年と六日三十七年といふ

五月

五月

六月

五月

七月

五月

八月

五月

九月

五月

十月

五月

十一月

五月

十二月

五月

一月

五月

二月

五月

三月

五月

四月

五月

五月

五月

六月

五月

七月

五月

八月

五月

九月

五月

十月

五月

十一月

五月

十二月

五月

四升年所〇巳乙

五月

三

五月

五升年所〇午丙

五月

四

五月

明治十四年と六百三十五年

室治

二月十日

三月十日

二月十日  
三月十日

三月十日  
四月十日

三月十日  
四月十日

四月十日  
五月十日

四月十日  
五月十日

五月十日  
六月十日

五月十日  
六月十日

六月十日  
七月十日

六月十日  
七月十日

七月十日  
八月十日

七月十日  
八月十日

八月十日  
九月十日

八月十日  
九月十日

九月十日  
十月十日

九月十日  
十月十日

十月十日  
十一月十日

十月十日  
十一月十日

十一月十日  
十二月十日

十一月十日  
十二月十日

十二月十日  
一月十日

十二月十日  
一月十日

一月十日  
二月十日

一月十日  
二月十日

二月十日  
三月十日

二月十日  
三月十日

三月十日  
四月十日

三月十日  
四月十日

四月十日  
五月十日





明治十四年と六百廿七年

七 乙卯年

今年もは花経  
三月の御事  
四月の御事  
五月の御事  
六月の御事  
七月の御事  
八月の御事  
九月の御事  
十月の御事  
十一月の御事  
十二月の御事

丙辰年

正月十日  
二月十日  
三月十日  
四月十日  
五月十日  
六月十日  
七月十日  
八月十日  
九月十日  
十月十日  
十一月十日  
十二月十日

丁巳年

二 戊午年

正月十日  
二月十日  
三月十日  
四月十日  
五月十日  
六月十日  
七月十日  
八月十日  
九月十日  
十月十日  
十一月十日  
十二月十日

明治十四年と六百廿五年

正嘉

明治十四年三月廿六日

正元 三月廿六日

三月廿七日

三月廿八日

三月廿九日

三月三十日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

三月三十一日

明治十四年と六百十九年

三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日	三月十日
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

文永	...	...	...	...	...	...	...	...	...
二月十八日	...	...	...	...	...	...	...	...	...

明治十四年と六百十七年

三月	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

三月	...	...	...	...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...

刊



明治十四年と六百十年いりる

八

四月十日秋元氏

九月十日山本氏

幸

十月五日の幸

十月五日の幸

未

六月五日の未

六月五日の未

申

三月十日の申

三月十日の申

相

七月十日の相

七月十日の相

州

八月十日の州

八月十日の州

口

九月十日の口

九月十日の口

難

十月十日の難

十月十日の難

雞

十一月十日の雞

十一月十日の雞

十

十二月十日の十

十二月十日の十

酉

一月十日の酉

一月十日の酉

癸

二月十日の癸

二月十日の癸

十

三月十日の十

三月十日の十

五

四月十日の五

四月十日の五

年

五月十日の年

五月十日の年

十

六月十日の十

六月十日の十

五

七月十日の五

七月十日の五

年

八月十日の年

八月十日の年

十

九月十日の十

九月十日の十

五

十月十日の五

十月十日の五

年

十一月十日の年

十一月十日の年

十

十二月十日の十

十二月十日の十

五

一月十日の五

一月十日の五

年

二月十日の年

二月十日の年

十

三月十日の十

三月十日の十

五

四月十日の五

四月十日の五

年

五月十日の年

五月十日の年

十

六月十日の十

六月十日の十

五

七月十日の五

七月十日の五

年

八月十日の年

八月十日の年

十

九月十日の十

九月十日の十

五

十月十日の五

十月十日の五

年

十一月十日の年

十一月十日の年

十

十二月十日の十

十二月十日の十

五

一月十日の五

一月十日の五

年

二月十日の年

二月十日の年

十

三月十日の十

三月十日の十

五

四月十日の五

四月十日の五

年

五月十日の年

五月十日の年

十

六月十日の十

六月十日の十

五

七月十日の五

七月十日の五

年

八月十日の年

八月十日の年

十

九月十日の十

九月十日の十

五

十月十日の五

十月十日の五

廿



明治十四年と六百四年

弘安の月出集

第大末の村

くさ

を考へて

以年と

三

九月廿日

中

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

と

明治十四年と六百年と

五

壬午年十一月一十六

四月廿二日

九月廿二日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

九月廿二日

十月三日

明治十四年と五百九十九年と

六

癸未

七

甲申

七

甲申

七

甲申

七

甲申

七

甲申

七

甲申

七

甲申

九月廿二日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日

十月三日



弘安八乙酉

後二条寺の宿禰  
○北条九代死成  
○かまきり給見

らぶらぶ日  
上人七奉  
○上野仲  
○辻本  
○辻本  
○辻本

九丙戌

○二月十日大かぐさ  
後出が日かぐさ  
かぐさかぐさ  
かぐさかぐさ

○十日日  
法勝北  
山は

十丁亥

○四月廿六日の  
あふい平忠王  
百廿二  
世の

十月南  
あみの  
のり  
日  
大井

正應庚子

○三月七日  
○徳重  
○のり  
○歳見

日  
氏の  
は  
は

二巳丑九月十三日

地上  
忌日  
と

日  
氏  
は  
は

三庚寅

三月二日  
中  
は  
の

年  
日  
年  
日

四辛卯

六月一日  
は  
の  
を

四月  
甲  
を  
は  
黒

五壬辰

去年十二月十日  
南  
八十  
大

あ  
ゆ  
は  
め  
こ

永仁癸巳

日  
谷  
一  
か

十  
化  
下  
山  
か

二甲午

日  
六  
あ  
あ

日  
て  
人  
か  
の

三乙未

日  
は  
は  
は

小  
つ  
あ  
山  
一

四丙申

日  
せ  
た  
か

六  
る  
荒  
力  
は

五丁酉

日びり王様のおの  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

日びり八月十三日  
井口迄十一年のち  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

六月戊戌  
日真ききやん  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

日真ききやん  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

三月廿日下後中山  
日常上人化年八  
十四日昭日ス  
やん

日真ききやん  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

二月十五日四糸  
金音ほと年七  
十一は年日ら  
と

九月廿一日日  
上入ふきと  
血脈と日

三辛丑二月廿日  
日ちり母妙  
辛四月十日男  
の書妙

六月廿一日日  
化依別一の  
妙

二月十二日日  
上人化年  
甲一り  
妙

八月十四日  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

三月十日日  
上人化年  
音よ  
ま

七月十二日  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

二月廿日  
上人化年  
音よ  
ま

四月廿日  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

九月廿日  
上人化年  
音よ  
ま

九月廿日  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

六月廿日  
上人化年  
音よ  
ま

六月廿日  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

二月廿日  
上人化年  
音よ  
ま

二月廿日  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

二月廿日  
上人化年  
音よ  
ま

二月廿日  
のりきでちりやん  
の目とこののり  
やん

二 巳酉

日ざうとやめん  
とらけとやう  
とんてんてん  
とてんてん

行能くはるや  
家地とやう  
又おやとやう  
明年三月十日  
化きういし

三 庚戌

六月二日  
十一月十九日  
化甲

日ざう三月八日  
天地長久の  
のいのり  
めんおんの  
とやう

應長 辛亥

二月七日  
とらとん  
けとらく中入

日ざう二十六  
とめん  
日魚上人  
ふくの印  
あつ

正和 壬子

日ざう  
のめ  
とらとん  
跡は

去る四月十日  
ん上人  
おそ  
十月日  
妙と作日

二 癸丑

此の  
今年  
とらとん

三月  
四月  
とらとん  
い六百年

三 甲寅

四月廿六日  
日ざう  
今年

九月二日  
日向上人  
か  
十月廿日  
化き

四 乙卯

七月十日  
今年  
十八代  
との

七月日  
ま  
よ  
九月十日  
日吉と

五 丙辰

今年  
立書  
渡清

七月  
十月  
庚  
年七十六

文保 丁巳

三月廿日  
山  
日頂上人

九月九日  
帝崩  
十月廿日  
化年七十一

二 戊午

四月廿三日  
往上人  
とらとん  
田

日向上人  
日  
の  
ん

元應 己未

四月三日  
人日  
ま

日向上人  
通  
ま  
い

二 庚申 四月廿日

日向上人  
八大  
八月  
上人

三月十日  
上入  
ち  
かい

<p>元亨二年西 十月廿八日 上人らく中を退 めりて 手紙返集百年</p>	<p>二壬戌 さかひのり のり よる日 とる</p>	<p>三癸亥 二月廿六日 一座日昭上人 化</p>	<p>正中 甲子 二月廿八日 八 山朝 九老の内</p>	<p>二乙丑 嘉暦 戊辰 八月一日 化</p>	<p>二丁卯 と 永 今年 て</p>	<p>十二月八日 い 下 日 れ</p>	<p>今年 元亨 十 の</p>	<p>秋 さ ま か</p>	<p>九 崩 七 考 の</p>	<p>十二 上 と 二 之 の</p>	<p>四月十九日 明 多 堯</p>
---	--	---------------------------------------	--	-------------------------------------	-------------------------------------	--------------------------------------	------------------------------	----------------------------	----------------------------------	---	--------------------------------

<p>三戊辰 十二月廿日 門上人 ふ 山</p>	<p>元徳 己巳 六月 一 お</p>	<p>二庚午 二月 日 ふ あ ら</p>	<p>元弘 辛未 多 六月 名 り</p>	<p>正慶 壬申 二月 日 八 ア</p>	<p>二月廿日 上人 化 九 其</p>	<p>二月廿日 日 年 日 山</p>	<p>二月廿日 日 年 日 山</p>	<p>二月廿日 日 年 日 山</p>	<p>二月廿日 日 年 日 山</p>
--	---------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	---------------------------------------	--------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------	-------------------------------------

三癸酉

とくしうちあち二代  
日目上人化年七十  
或老古骨と二分て  
たふちあち人化年

とくしうちあち  
少系をのり入  
とくしうちあち  
少系九代減年

建武 甲戌

西月十日日秀上人  
化中老丹がらひ  
ア上とあちと  
あちあちの岡山

十月一日日秀  
代日産上人七十  
キ化。十月八日  
の二代目を化  
はつて日秀は

三丁亥

六月十日日秀上人  
化中老丹がらひ  
ア上とあちと  
あちあちの岡山

八月日産上人  
とくしうちあち  
とくしうちあち  
日秀とあち

延元 丙子 二月

二月十日日秀上人  
化中老丹がらひ  
ア上とあちと  
あちあちの岡山

八月日産上人  
とくしうちあち  
とくしうちあち  
日秀とあち

二丁丑

二月十日日秀上人  
化中老丹がらひ  
ア上とあちと  
あちあちの岡山

八月日産上人  
とくしうちあち  
とくしうちあち  
日秀とあち

曆應 戊寅

二月十日日秀上人  
化中老丹がらひ  
ア上とあちと  
あちあちの岡山

八月日産上人  
とくしうちあち  
とくしうちあち  
日秀とあち

二日卯

後村上とあち  
有朝の真宗元  
年

七月日産上人  
丸の城とせえ  
とくしうちあち  
明名年とあち  
極成天竺とあち

三庚辰

四月十二日日保八  
十二化上縁とあち  
とくしうちあち  
あちあちの岡山

中老日産上人  
日産日明日  
日永日産とあち

四辛巳

正月十日中老日保八  
上人化年九十甲別  
休とあちとあち  
あちあちの岡山

三月六日日保八  
化年九十日保八  
上人の化子とあち  
あちあちの岡山

康永 壬午

十二月足利家の  
の母とあちとあち  
あちあちの岡山

十月十二日日保八  
とくしうちあち  
とくしうちあち  
あちあちの岡山

二癸未

八月十日日保八  
上人八十八日保八  
あちあちの岡山

九月十日日保八  
化年八十八日保八  
とくしうちあち  
あちあちの岡山

年代記 五十九年終

中老十八人法書異とあち  
是より法書とあち  
人直授の法書とあち  
名目とあち

上足六老尊者畧傳

日昭

つもの玉女経王山法華  
經の阿闍梨阿闍梨は  
俗姓の平氏とてけり山祐  
昭の次男也傳三年ま  
三月廿六日化を歳八十八  
の法十三年と五百零六年

日朗

ひらのゆい上本門寺  
の阿闍梨比企谷妙本も下  
経の阿闍梨の本土との阿  
山火心阿闍梨と俗姓の藤氏  
元心元年未正月廿八日化年  
七十八の法十三年と五百零三年

日興

あきのゆい阿闍梨富士山  
ちの山本門寺の阿闍梨  
阿闍梨は平俗姓とのふた井  
の庄日なまき氏の男也  
二年二月廿七日化年八十八  
の法十三年と五百零十年

日向

あきのゆい阿闍梨  
上経のふかざらぬまき阿闍梨  
法と阿闍梨は平俗姓小林  
氏秋葉のぶの男也正和  
二年寅九月廿日化年六十  
の法十三年と五百零八年

日頂

下経のふかざらぬまき阿闍梨  
阿闍梨伊予阿闍梨は平俗  
姓の兄と文保元年二月八日化六  
十六の法十三年と五百零七年

日持

あきのゆい阿闍梨  
蓮華阿闍梨は平俗姓  
系氏松野村の人と  
少色は平月とて化  
元元年日本にありて化を唐  
の法十三年と五百零九年

此二尊ハ別段故ニ此ノ記

日常

あきのゆい阿闍梨  
又備修院とて入皇  
化と化を正安元年三月  
化と年八十四  
の法十三年と五百零九年

日像

阿闍梨阿闍梨  
経一九歳永元十月廿日化  
年四の法十三年と五百零九年

中老十八人畧記

日家

あきのゆい阿闍梨  
日保上人の兄也正和四年七  
月廿日化年六十八

日源

とらふのふかき本多さうら  
さうまは神 五名九月十日  
化すの法十年と五百七十年

日辨

下総正業山妙光寺開山  
多き阿加り 志き元四六月  
廿六日め法十年と五百七十年

日法

甲子安山立正了阿山  
つる阿より 曆初四正月六日  
化年九十め法十年と五百七十年

日傳

甲子小むろ妙遊了阿山  
ひき阿より 乾元元年二月  
十二元山秋二め法十年と五百七十年

日位

徳んろ青妙の本がくち阿山  
法初三月より 文保三四月廿二  
日化すめ法十年と五百七十年

日秀

上総と田野つくと阿山丹  
波りより 建元元年四月十日  
年七十め法十年と五百七十年

天目

下総佐野妙入りの阿山  
多め法十年と延元二月廿六日  
化す十年と五百七十五年

日得

佐より小阿より房妙入り  
ち年山阿安 二月廿一日化  
め法十年と五百七十年

日合

下総安野の妙興了阿山  
十月十日め法十年と五百七十年

日賢

とらふ村松阿山海上  
ち二代め法十年と阿より 曆  
元三月元年九十年

日高

下総甲山三代阿の阿より  
め法十年と八のめ法十年と  
阿より廿六め法十年と五百七十年

日保

上総阿より妙入りの阿山  
三代阿のは照賢元三月廿日  
化年今二め法十年と五百七十年

日實

とらふ阿より妙入りの阿山  
但る阿より 正元二月廿三日  
化め法十年と五百七十年

日禮

下総阿より妙入りの阿山  
坊正元四年五月一日化年  
八十め法十年と五百七十年

日祐

つる阿より妙入りの阿山  
多め法十年と阿より 二月  
十日化す

日忍

相より阿より妙入りの阿山  
下は阿より 元元四月  
十日化め法十年と五百七十年

日門

ひたちのふかき光の仙の阿山  
光明のち他と阿山二め法十年  
と五百七十年

九老

日朗上人の  
門人より

日像

徳上りてくさる  
おんちとあきくさるの  
作りのまんとくあり

日印

徳せいのふた面本史の  
用山すか一阿さるあ層  
三年十二月廿日化六十五

日輪

江戸池上おきくさる  
二代大経阿さる延丈  
早四月四日化年八十八

日典

下徳平おきか出さる  
大老阿さる暦正四年  
三月六日化年九十九

日澄

尾上りお光山おきか  
大上り阿さるおし元  
年八月一日化年八十八

日善

上野徳中お大徳ち  
のお実成ち山元は二  
年九月化年七十

日行

徳成のお日さるお光ち  
徳山おし阿さる元徳  
二年二月化年六十二

日範

丹波さくちお常せうち  
徳山ちせん阿さる元徳  
二年三月十八日化

朗慶

武列八りく山徳連ち  
徳山徳中阿さる元徳  
元年二月廿八日化

直持

廿三人は徳の徳の  
徳の徳の徳の徳の

日曉

わささかおおきか  
徳山徳元年小徳成の  
徳山徳の徳の徳の

日玉

徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日

日隆

小徳成三代刑徳阿さる  
徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日

日静

徳山一のおおきか  
徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日

日榮

甲州下おおきか  
徳山徳元年四月十八日化

日得

徳山のお阿さる  
徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日

日禮

下徳山おきか  
徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日

日目

徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日

日徳

徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日  
徳山徳元年十一月十日



日證 とうりゅうの宮重原常休  
ち二代は叔仙がうり地景  
三年三月十四日化

日朝 下総多古郡中山郡光  
原山常存りんとり  
弘安六年五月廿二日化

日胤 下総古河郡光原山  
山常存り西日一日化  
源のまゝの未あり

日唱 下総多古郡中山郡  
山首づい常存り永十年  
三月一日化元年八十八

日寂 江戸多古郡中山郡  
光原山常存り西日一日化  
安永元年十一月一日化

真廣法印 多古九年  
えんりつ常存り西日一日化  
四年二月二日化

日宗 甲一常存り山  
光原山常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日心 甲一常存り山  
光原山常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日了 甲一常存り山  
光原山常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日乘 甲一常存り山  
光原山常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日春 光原の三代連明阿  
がく常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日元 甲一常存り山  
光原山常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日進 光原の三代連明阿  
がく常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日満 佐原の二代  
がく常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日善 光原の三代連明阿  
がく常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

日學 比企大守と即り本  
かまの常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

○優婆塞略記

高祖を常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

工藤吉隆 常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

荻原義宗 常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

池上宗仲 常存り西日一日化  
西暦四年四月五日化

波永井實長

甲斐の人おらうが  
の未今のいふのゆゑ

四條頼基

中つとてあつと  
ふにいふのゆゑ

太田兼明

あつとていふゆゑ  
より政のよき人

江川吉久

あつとていふゆゑ  
今もたて在尚ん

泉澤兄弟

兄と後次をいふ  
弟はつとていふ

印東有圓

佐藤のつとていふ  
の人日朗上人の父

進士善春

あつとていふゆゑ  
いふ民のゆゑ

南條七郎

あつとていふゆゑ  
弟はつとていふ

宿谷光則

あつとていふゆゑ  
今行時と光則

寂明寺時頼

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

北條時宗

あつとていふゆゑ  
弟はつとていふ

曾谷入道

あつとていふゆゑ  
今父のゆゑ

北條弥時

あつとていふゆゑ  
子時とゆゑ

上野時光

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

秋元太郎

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

三澤入道

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

松野入道

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

西山入道

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

大井橋六

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

金原法橋

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

新池氏

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

日住禪明

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

浄本

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

吉田兼益

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

船守弥三郎

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

伊東朝高

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

佐倉重吉

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

星名五郎太郎

あつとていふゆゑ  
あつとていふ

本間重連

ちちとりの佐と  
お一の谷の邑に

中興入道

近者小治り佐に  
代くおちの佐に

男金實信

若くして佐に  
日向上人の父に

次郎助

佐に怒にあり  
あふ佐に

宇都宮景綱

あつちの佐に  
長久山砂に

斎藤兼綱

藤原の邑に  
まの佐に

米倉丹後守

甲の佐に  
らの地に

斐原國重

佐にありあの人  
あやうと佐に

石川吉廣

佐にふちの佐に  
明八年の佐に

太田資清

佐にふちの佐に  
代るふちの佐に

太田資高

太田の佐に  
の二男の佐に

加賀太郎

北の佐に  
るふちの人

加藤清正

肥後太守は四位下  
侍定肥後守

加藤忠廣

佐に肥後と佐に  
は佐に肥後太守

加藤光正

肥後守は佐に  
肥後守は佐に

狩野殿昌

佐に佐に  
佐に佐に

比企入代日齋上人と帰依

比企の佐に  
佐に佐に

齋上人一字と授けは

佐に佐に  
佐に佐に

と齋昌と呼又伯耆と

佐に佐に  
佐に佐に

云深く信じて入道

佐に佐に  
佐に佐に

号胡来と吟を書と祐幸

佐に佐に  
佐に佐に

とり一子ありと出家

佐に佐に  
佐に佐に

と比企八代日綱上人是

佐に佐に  
佐に佐に

齋昌の女を某と嫁と七

佐に佐に  
佐に佐に

代日壽上人と生を佐

佐に佐に  
佐に佐に

と理哲とらと

佐に佐に  
佐に佐に

と今齋昌上人

佐に佐に  
佐に佐に

高祖本記終傳の開巻

佐に佐に  
佐に佐に

狩野景信

佐に佐に  
佐に佐に

狩野正信

佐に佐に  
佐に佐に

狩野元信

佐に佐に  
佐に佐に

狩野之信

正信次男 元信 長得院殿 権左助

貞岳院殿

狩野太郎左衛門 信行 室 五楽信貞母堂 正信妹

狩野信貞

高岳院殿 五楽斎 日静 泰山院祖

浄顕院殿

五楽信貞室 妻 日田尼とす

甲... 元信之信 兄 松の 醜く  
あゝ 是 天下 然 一の 画 一々  
上 流 び び び び び び  
不 希 代 の 細 画 び び び  
ろ 子 近 幸 大 徳 寺 び び び  
厭 び び び び び び び び  
狩 神 殿 在 の び び び び  
て 日 本 の 名 画 唐 土 び 勝  
び び び び び び び び

道善法印

び び び び び び び び

睿山尊海

え び び の び び  
う び び と び び び

浄顕

う び び の び び  
う び び と び び び

義浄

う び び の び び  
う び び と び び び

普門

う び び の び び  
う び び と び び び

○諸山大徳上人畧記

日鏡

び び 平 賀 び 土 上 六  
代 び び 海 び 天 吉 吉

日意

平 賀 八 代 秀 隆 び び  
あ び び 八 び び び び び

日福

び び 二 代 後 兼 教 び び  
そ び び び び び び び

日住

系 必 定 十 代 紀 び び  
西 住 び び 用 び び び び

日護

あ び び 十 二 代 紀 び び  
日 護 上 人 び び び び

日能

破 中 び び 大 比 呂 び び  
同 び び び び び び び

日英

破 中 氷 び び び び び  
同 び び び び び び び

日出

び び び び び び び び  
冥 山 日 明 上 人 の 勝 び

日澄

あ び び び び び び び び  
一 び び び び び び び

日妙

尾 び び び び び び び び  
甲 別 び び び び び び び

日瑠

あ び び び び び び び び  
依 什 信 遠 日 天 文 甲

日諫

赤 坂 道 之 塚 館 び び  
尾 別 大 山 居 天 文 甲

日詮 南於ふひのり  
天の甲

日成 坊長延の系根  
承徳二年記日成  
人

日生 日信  
信延の系根  
承徳二年記日信  
人

日圓 中村  
信延の系根  
承徳二年記日圓  
人

日裕 上徳  
西陸の系根  
承徳二年記日裕  
人

日典 坊長  
延の系根  
承徳二年記日典  
人

日行 坊長  
延の系根  
承徳二年記日行  
人

日運 坊長  
延の系根  
承徳二年記日運  
人

日饒 坊長  
延の系根  
承徳二年記日饒  
人

日慧 坊長  
延の系根  
承徳二年記日慧  
人

日受 坊長  
延の系根  
承徳二年記日受  
人

日盛 坊長  
延の系根  
承徳二年記日盛  
人

日登 坊長  
延の系根  
承徳二年記日登  
人

日得 坊長  
延の系根  
承徳二年記日得  
人

日精 坊長  
延の系根  
承徳二年記日精  
人

日明 坊長  
延の系根  
承徳二年記日明  
人

日祐 坊長  
延の系根  
承徳二年記日祐  
人

日象 坊長  
延の系根  
承徳二年記日象  
人

日銀 坊長  
延の系根  
承徳二年記日銀  
人

日勇 坊長  
延の系根  
承徳二年記日勇  
人

日遼 坊長  
延の系根  
承徳二年記日遼  
人

日桂 坊長  
延の系根  
承徳二年記日桂  
人

日貞 坊長  
延の系根  
承徳二年記日貞  
人

日忠 坊長  
延の系根  
承徳二年記日忠  
人

日護 坊長  
延の系根  
承徳二年記日護  
人

日真 坊長  
延の系根  
承徳二年記日真  
人

日選 坊長  
延の系根  
承徳二年記日選  
人

日收	肥後常光の二代 光孝三十九年六月廿六 紀一〇〇〇名田島湯子十 傳少のそと六代重八
日延	肥後常光の二代 光孝三十九年六月廿六 紀一〇〇〇名田島湯子十 傳少のそと六代重八
木蓮法師	尾崎の傳少のそと六代重八 蓮のそと六代重八
日治	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日風	神尾の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
尚金阿闍梨	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日惠	肥後常光の二代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日珍	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
妙珍阿闍梨	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日詮	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日運	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日養	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日感	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日全	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿

日養	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日教	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日尋	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日窓	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日完	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日審	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日徳	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日儀	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日長	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日陽	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日祥	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日産	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿
日遠	加藤の初代 光孝三十九年八月廿 院光孝三十九年八月廿

日守

日三代元禄六年八月  
化つらるる之政の初也

日悟

仙臺法運と二代  
貞亨二年正月化七十

日芳

系終立ちり十一代  
受戒の人二三百人

日存

紀しる書珠と四代  
寛文十一年十一月化

日允

系終立ちり十一代  
本心法光悦の子に

日廷

如堂と廿六代伏見  
系邦彦親臣の序よ

日造

小みちと誕生と廿一  
代元禄十年正月六十二

日孝

小みちと廿二代水戸  
西山君公を招きり

日貞

系終立ちり十九代  
述多しと徳二年化

日忍

系終立ちり廿四代  
寛保九年正月化七十

日梵

系終立ちり廿六代  
以て出家返高僧七十

日念

系終立ちり廿七代  
系終立ちり廿七代

日禪法師

系終立ちり廿七代  
塔り人の名宣年

日噫

系終立ちり廿七代  
系終立ちり廿七代

日永

日二代ちりり  
享保八年十月化七十九

日信

日三代ちりり  
享保九年二月化六十六

日泰

日四代勇とりり  
享保十六年正月化六十八

日禪

紀しる書珠と六代  
享保二十三年七十九

日忠

熊の形と本度と  
開山山徳二年化七十二

道榮

紀しる書珠の法  
系終立ちり廿七代

日玄

系終立ちり廿七代  
系終立ちり廿七代

日陽

紀しる書宣経と  
二代寛保十七化七十七

日利

紀しる書光と  
文十二年三月化六十

日廣

紀しる書田と  
系終立ちり廿七代

日慶

系終立ちり廿七代  
系終立ちり廿七代

日順

系終立ちり廿七代  
系終立ちり廿七代

日謙

系終立ちり廿七代  
系終立ちり廿七代

日秀

伏見と系終立ちり  
日寛と系終立ちり

日雨 天仁二年化八十一

日匠 天保二年化八十一

日近 天保八年四月化八十六

日如 天保十二年十月化七十二

日相 天保十二年十月化七十二

日隆 天保十七年二月化七十九

日性 天保十七年二月化七十九

日遊 天保十七年二月化七十九

日寛 天保十七年二月化七十九

日亮 天保十七年二月化七十九

日昌 天保十七年二月化七十九

日了 天保十七年二月化七十九

日登 天保十七年二月化七十九

日言 天保十七年二月化七十九

日好 天保十七年二月化七十九

日眼 天保十七年二月化七十九

日念 天保十七年二月化七十九

日應 天保十七年二月化七十九

日禎 天保十七年二月化七十九

日量 天保十七年二月化七十九

隱道人名畧記

日亮 天保十七年二月化七十九

妙音道人 天保十七年二月化七十九

日英 天保十七年二月化七十九

日龍 天保十七年二月化七十九

日亮 天保十七年二月化七十九

日善 天保十七年二月化七十九



日啓 寂せうらん  
元禄二六月化又十八

日顔 又世人多於少の  
居後年々

日竟法師 多うん  
元禄七七月化

日中法師 西後りん  
元禄七十二月化七十二

日孟 宗祥秀典  
多うん 西後りん  
元禄七十二月化七十二

法華山道人 通入ちと吟  
六十二テ化

由信法師 たらがも  
大虚 元禄七十二月化七十二

春継法師 たらがも  
大虚 元禄七十二月化七十二

澄意法師 たらがも  
大虚 元禄七十二月化七十二

日良 実多うん  
元禄七十二月化七十二

一心法師 たらがも  
大虚 元禄七十二月化七十二

空水法師 たらがも  
大虚 元禄七十二月化七十二

真滴舟 久我村  
元禄七十二月化七十二

田中本如法師 多うん  
元禄七十二月化七十二

日實法師 多うん  
元禄七十二月化七十二

日忍 多うん  
元禄七十二月化七十二

日命法師 多うん  
元禄七十二月化七十二

日祐法師 多うん  
元禄七十二月化七十二

深州元政 多うん  
元禄七十二月化七十二

日可宣翁 多うん  
元禄七十二月化七十二

慧明和尚 多うん  
元禄七十二月化七十二

日親和尚 多うん  
元禄七十二月化七十二

日念 多うん  
元禄七十二月化七十二

日教 多うん  
元禄七十二月化七十二

松平少将 多うん  
元禄七十二月化七十二

人々 多うん  
元禄七十二月化七十二

元禄七十二月化七十二

此ハ人の後世の高阜と識  
 小キ一ノ多ク其智徳の流  
 法をあるも徳をある  
 とやそれく其の人其言  
 と感ド其のせまきと其  
 唯ニあることと云

日原  
 終のよみは徳を有  
 山至徳三月廿八日

日真  
 東光院と号宣永三年  
 四月廿二日化年六十と

日荷  
 みつろ下のみつろ  
 りのせりくともれ  
 りくともれくともれ  
 りくともれくともれ

白蓮阿闍梨日興上人門人

日華  
 日華

日備  
 日備

日仙  
 日仙

日代  
 日代

日道  
 日道

日妙  
 日毫

蓮華阿闍梨日持上人門人

日教  
 日圓

日達  
 日信

日什 二位僧部 什内院の之也

唐及び好漢も同山字賢明後  
 玄妙と改し 賢外 今在津人  
 始て天台書 常あかり  
 一時と妻子と捨て 出家  
 とてあひふよ上て法を習ふ

又中山の日原上人も備

自給 洛國東と野

表信夫より一書を撰て二  
 任の修於之任ぞ年大至徳  
 三年二月廿八日化歳七十九

日真  
 多岐志光山本隆との同山

長亨二年壬辰永福元年十二月  
廿九日化と高山の石塔百像上人等

日尊

要請しんん日尊上人の弟子  
日尊力と化し二十六年と  
建立しんん故は自云二十六年  
の本尊と授けり

日陳

系了光山本禪岡山田光坊  
と号門一阿闍梨とあり  
後に松平の侍連と成り  
六年五月廿一日化年八十一

日辨

系本涌山妙泉と岡山大徳  
坊に任じ徳三年甲戌五月  
二十日化聖就院と云  
書山は佐渡日尊の弟の  
のそはあり

日淵

系空申山寂光と云天  
年中始て遊する年  
二月十六日化高山の日蓮上  
人の弟子利あり又人丸の蓮  
信実系日本系の本尊なり

新著同集

日秀

系廣布山本塔と岡山玉  
阿院と号す遊する台  
一位通嗣公の男也本園も  
五代日傳律師の門人なり  
寛文二年八月八日化年六十八

日意

系後山妙徳と云山院  
永正十六年二月二日化

日祝

頂妙寺阿曇権大僧侶は印  
系十四日二月二日化八十七  
妙国院と号す平葉氏中山六  
代日産上人の門人なり

日隆  
本終り岡山精進院又桂林亭  
と号し中云塔井左の石尚  
後の子也叔父より日存日純  
あり又尼が時の本奥すと  
開く寛正五年二月廿五日化  
年八十一

日存  
卯抄山妙蓮子岡山妙寂子  
日存上人の門人靈永升  
八年三月廿六日化

日親  
まふかう上人  
名於睿昌山本法寺の兵山  
久を成院と号し上流のく  
幼名寅菊麻呂下保中山  
日蓮上人の天子出家の後  
諸家の法門に通じふと  
あり上人夜く自我偈一

百へん又凡そ抜指と熱湯  
よ浸しつゝ之を著し其の改  
をそらそ其の法めげく  
等ゆらつゝまらふをそら  
西の方皆上人のひらきま  
あく長亨二年九月十七日  
化を年八十二幼名も終ら  
自り壽塔をばくまの  
本壽もくれまの法十年  
に三二百九十四年まらる

日朝  
甲子の女めふ山十二代行学院  
か賢阿園架と号し應九  
中六月廿五日化を壽七十九  
世に眼病痛人の毎月廿日  
精をす有安ふのふ山行  
学院日朝上人とせへんま  
まらるるを年愈と今有

自他宗をより利をとりて  
世に疑へし是高祖大上人の  
後記の事か故に  
高祖本記の傳へし事か

日静

高祖大光の四代妙経院信光  
と云ふの事か  
上杉修理亮頼重と云ふ母  
の足利家の女に故に  
軍の叔父に幼名を  
麻呂と呼中老日位上人に  
没して出家して信光と  
稱足利義詮に  
月廿七日化して年七十二

朗源

朗源 少元と云代  
極傍の千葉氏の幼名徳

壽麻呂と呼年十二文  
て得度大受大傍の  
て化道を受て  
十八日逝して年二十三

日實

立木寺の代字の式と云  
少元と云代日實上人の  
人ありしが齊公と云  
代に自ら五代と云  
長祿二年四月廿二日化して  
在り六十年あり

日實

妙受の代字の通字  
井氏記別の事か  
の所候ありて  
源房の事か  
六月七日化して年六十一

古今比丘尼貴賤信者略記

妙定比丘尼 應永中

一條の関白怪嗣公の御姫君

日海

淨心院殿小田原北條元京  
大夫平の氏子の女御外  
宮の御女御の御孫  
新六郎 齋資と號天文十  
九年戊戌九月十日没

妙法比丘尼

久我中納言晴通卿の御息  
女あり

妙弘日證

大和の比古市攝子ありの女  
母の衣言の御女

日了

信解妙法といふるは二年  
紀列より終る

妙意

長祿元年カ山妙意といふ天  
皇御孫の御孫と妙連とい  
其孫通妙の時宅と變ト  
てると為神カ山御連と  
嘸傳ち大徳一應福二年  
尼妙意を老く心と言ひ  
圖ち十五代大徳日柄上人  
を考と改め妙意とて呼  
又津本と稱せらる

妙正

千足村の地ありて  
て高祖の御孫と稱せ  
ハ妙正といふあり

妙正日久

長壽院の御孫ありて  
つきの時日法上人の傳  
あり

妙勝

ちんねらぬまゝにちんねらぬまゝに  
かゝるまゝのまゝにぬまゝに

乙女御前

伊予守定時の子の向の崩山  
日原上人尾引ぬえ山木と  
ちんねらぬまゝにぬまゝの妹  
かゝる

妙紹日心大夫人

華濃よりしん養珠院殿六連  
は春持氏々の孫三浦氏の義  
子とす 北列の太守南龍院殿  
水戸の太守源威公御兩公の所  
母堂也既よまの山の七百山日女  
人の性音より来り清くまゝと  
大夫人誓て御参詣の後かゝる  
て来りぬまゝに大夫人とす又小  
るに妙経六十六部と書みん廿一  
部の字敷成をて承り二年八  
月廿一日逝を御年七十七甲列大

野山本多寺と御建たぬまゝに  
傳り高祖本記抄にぬまゝに

〜〜妙寺

日芳大夫人

紀州南龍君公の御藤中にて  
加藤清正公の女寛文六年午  
正月廿四日逝を御法号は  
瑤林院殿清秀とす奉はこ

妙月日玉尼

養珠院殿の同山  
珠著院と稱す皆引大坂人  
寛文七年尼とす

日久妙本

ふかき二代は壽言子保六年化  
三礼血書の妙経と書み

妙順

ふかき養珠三代は壽の妹享  
保六年化七十。一宮三礼の  
閑結十冬妙経とす

日ひ久ひさ大夫だいふ人にん  
谷や左さ馬ま助すけ重しげ則のりの女むすめ竊ひそ云い  
水みづ戸と門かど光みつ園のりの女むすめ竊ひその太お  
頼たの重しげ胡こ呂りの御ご母はは堂どう寛かん  
丈ぢやう元げん年ねん丑うし十じゆ一いつ月げつ逝しと奉ほう法ぽう  
号ごう久きう昌ちやう院いん殿てん心しん周しうと奉ほう法ぽう

日ひ迅しん大夫だいふ人にん  
播は磨まの志し淺せん池ち田でん輝き政せいの女むすめ  
御ご養やう女によ御ご猶ゆう子しに嫁よめと奉ほう法ぽう  
万ま治ぢ二に年ねん亥がい二に月げつ逝し日にち逝し所しよ法ぽう  
号ごう孝かう勝かうと後ご秀しゆ岸あん日にち迅しん大だい婦ふ  
因に云い中ちゆう老らう日にち門もん上じやう人にんの御ごと  
光みつ明めい山さん大だい仙せんと奉ほう法ぽう後ご今いまの  
名なを奉ほう法ぽう御ご家けの忠ちゆう女によ丹たん  
後ごの身みの御ごあり世よ俗じやく漢かん  
て政せいと奉ほう法ぽう

日ひ嚴げん大夫だいふ人にん  
仙せん臺たい三さん代だいの太お守しゆ少せう將じやう紹しやう安あん於お  
氏しの室むろ三さん氏しの女むすめ貞ちん亨かう三さん

年ねん寅いん三さん月げつ四じゆ日にち逝し法ぽう号ごう  
淨じやう眼がん院いん及及び了りやう無む日にち嚴げん大だい婦ふ

日ひ妙めう大夫だいふ人にん  
安あん藝ぎ四し代だい太お子し將じやう光みつ嚴げん相しやう  
氏しの室むろにて夫おとこハ如ごと賢けん二に代だいの  
女むすめ元げん禄ろく十じゆ三さん年ねん辰しん七しち月げつ廿にじふ七しち日にち逝し  
法ぽう号ごう自じ證じやう院いん殿てん英えい心しん日にち妙めう大だい婦ふ

妙めう慧ゑ心しん日にち秀しゆ大だい比ひ丘きう尼に  
羽う柴さい武ぶ藏ざうと一いつ路ろの室むろにて  
関せき白はく秀しゆ次じ公こう冬とう淺せん秀しゆ勝かうの母はは  
堂どうを大だい向かうの婦ふ君きみニ文ぶん禄ろく五ご  
年ねん申しん正せい月げつ御ご得とく度ど淨じやう戒かい師しハ  
本ほん園えん三さん十じゆ六ろく世せい後ご孫そん日にち禎てん上じやう  
人にん也なり御ご法ぽう号ごう瑞ずい菴あん院いん殿てん  
申まを奉ほう法ぽう二に旧きう村むら雲うん所しよ御ご祈いのちの  
御ご洞どう山さん

又またひかへて妙めう慧ゑ山さん若じやく山さん  
と秀しゆ次じ公こう秀しゆ勝かうの母はは  
所しよ建けん立た所しよ代だいの御ご所しよ不ふと



妙秀

本阿弥光二の妻元和四年  
歳九十ヤと没大信考あり

日香大夫人

今の因伯二代の太皇正四位下  
参後忠雄の室少将光仲  
朝臣の母常子室河内  
峰須賀至法朝臣の女  
九年申正月廿九日  
瘞磨に  
て逝まはせり

芳春院殿妙日香大姉

因伯四代日香大姉  
女常泉子  
やうの太皇正位あり

日秀大夫人

因伯四代の太皇正位  
朝臣の室実朝の女  
信朝の女元禄十一年寅九  
月九日没法皇の御孫院殿日  
秀妙性大姉位牌あり  
本内さいると云日香とあり

芳心院殿

因伯三代の太皇正位  
朝臣の室実朝の女  
院殿亞相公の御息女  
室永元壬子十一月廿八日  
御年七十八位牌あり

日香

因伯六代の太皇正位  
朝臣の室実朝の女  
直々の御息女  
二年申正月廿三日  
挂香院殿四月妙浄日  
大姉廟不仁戸中  
寿院あり

日香大夫人

加越後三玉の太皇正位  
利家の子室高  
小松貴門の御母  
山崎氏定承八年甲三月六日  
逝き歳六十二

日慧大夫入

今侍の中將正之朝臣の母  
母堂実朝少将の朝臣の母神尾  
伊子栄加の女ありて寛永十  
二年子九月十七日逝とほり  
津光院殿は紹日慧大夫

日立大夫入

伊藤太守隠岐守定頼朝  
臣の室天和二年戌十一月十  
六月卒は号養仙院殿は榮  
日立大夫実朝京極侍母  
後守高彦朝臣の女

日壽

清浄院殿加藤清正相  
臣の室あると寛永十七年  
二月廿四日逝

理哲尼

狩野殿昌の女比企七代日  
親上人の母とさるなり日

記上人如法とて建長五年  
父齋昌の御誓の為とて  
成化せし其所謂とては  
その山号と齋昌ゆゑに  
狩野元春のをりて  
りよつと

妙善

成化の必領城取の人寛永  
十九年十二月十九日没年七十

日仙尼

かまろり高松と深山三浦  
氏の女ありて寛文中

日慶尼

徳氏とありて仏祖統紀と  
けり

日相尼

加刺令入信者  
妙是とく入信者  
を承申

日忍  
山大院法眼存信の室也  
妙守信者信安信等の  
母より説あり万治三年子  
七月廿二日没  
養秀院孝清日忍大略

妙立日修  
甲列から沼村の人元福七  
年十一月廿四日化

日顯尼  
高取田中津妙庵の  
実の御井氏の女まほ保十  
二年没

日覺尼  
高取津妙庵のまほ田氏の  
女享保十六年没

諸府縣下寺院之大略

○山城

大本山妙頭寺 大本山本園寺  
具足山妙覺寺 具足山本木寺  
妙塔山妙満寺 本山本徳寺  
卯木山妙蓮寺 惠光山本隆寺  
廣布山本満寺 本山 雲住寺  
法鏡山妙鏡寺 齊白山本法寺  
光了山本鏡寺 阿比山頂光寺  
本涌山妙泉寺 空中山寂光寺

旧檀林ノ部

永法院 山内 久遠山本経寺  
妙善山 妙善寺 法隆山 妙満寺  
了光山 了光寺 寂光山 寂光寺  
妙志山 隆威寺 慈冠井山 慈冠寺

法系山 法系寺 于我山 法系寺  
昭申山 昭申寺 法系山 昭申寺  
少岐 法系寺





○甲斐

總本山

身延山久遠寺

西住の内証寺

大神山の中寺

精舎山を好寺

法皇山を好寺

安山を好寺

宝塔山を好寺

光宗山を好寺

之徳山を好寺

廣教山を好寺

高光山を好寺

早川山を好寺

飯沼山を好寺

松山を好寺

坂木井山を好寺

妙宗山を好寺

○伊豆

經王山を好寺

海光山を好寺

海上山を好寺

印光山を好寺

海岸山を好寺

舟山を好寺

大成山を好寺

常在山を好寺

大行寺

妙法寺

法皇寺

東海寺

胡光寺

○相模

長無山を好寺

高光山を好寺

明里山を好寺

金谷山を好寺

壽延山を好寺

法皇山を好寺

長谷山を好寺

妙法山を好寺

石井山を好寺

妙法山を好寺

櫻井山を好寺

星梅山を好寺

お宿 長福寺

六浦山を好寺

海山を好寺

妙法山を好寺

三光山を好寺

水沢且林山を好寺

那波山を好寺

明里山を好寺

过村山を好寺

長藤山を好寺

乳橋山を好寺

妙法山を好寺

常光山を好寺

壽延山を好寺

廣目山を好寺

法皇山を好寺

法皇寺

高光山を好寺

徳海山を好寺

法皇山を好寺

新山を好寺

法皇山を好寺

新山を好寺

法皇山を好寺

新山を好寺

法皇山を好寺

新江の山勢なり 欽山の山勢なり  
 上ヤ 妙光寺 長生山妙光寺  
 サコ 秀教寺 成徳山妙福寺  
 法久山上新寺 冥中山弘法寺  
 出権 長福寺 同 妙経寺  
 風洞 妙光寺

○武藏 入百五十ノ

長生山妙光寺 妙徳山妙光寺  
 法苑山浄心寺 成光山法光寺  
 善光寺瑞瑞 経皇山妙光寺  
 平河山法光寺 久米山善光寺  
 鳳凰山妙光寺 徳島山妙光寺  
 奥山山浄心寺 芳持山善光寺  
 妙社山善光寺 大光山善光寺  
 教皇山善光寺 善光寺善光寺  
 善光寺善光寺 善光寺善光寺  
 十石山善光寺 善光寺善光寺  
 中村山善光寺 天智山善光寺  
 深栗山善光寺 八幡山法光寺

日守山妙光寺 法光寺善光寺  
 柳山妙光寺 善光寺善光寺  
 富徳山大法寺 善光寺善光寺  
 蓮信山妙光寺 法光寺妙福寺  
 久保山善光寺 善光寺善光寺  
 牛込の寺善光寺 徳徳山善光寺  
 朝日山蓮光寺 善光寺善光寺  
 実山山蓮光寺 八幡山善光寺  
 長生山善光寺 東京 徳島寺  
 東京 妙福寺 同 善光寺

○安房

小湊山誕生寺 中谷山妙光寺  
 妙隆山護国寺 妙日山妙蓮寺  
 成初山妙福寺 光山山善光寺  
 明皇山日蓮寺 日蓮寺

○上総

茂原政康寺 善光寺善光寺  
 善光寺善光寺 善光寺善光寺  
 廣栄山妙光寺 善光寺善光寺  
 庭谷山妙福寺 法光山善光寺

三好山好光寺 永入山好福寺  
法福山好経寺 法善山好徳寺  
妙善山好光寺 大徳山好光寺  
富珠山好光寺 周鳳山好徳寺  
多福山上好寺 妙善山好光寺  
美山好経寺 大上本寺

○下巻

本寺山好光寺 志向山好光寺  
妙善山好光寺 正徳山好光寺  
長今山好光寺 長宗山好光寺  
長久山好光寺 長徳山好光寺  
妙善山好光寺 妙善山好光寺  
法善山好光寺 今徳山好光寺  
法善山好光寺 万徳山好光寺  
白井山秋元寺 飯塚山好光寺  
中山山好光寺

○常陸

之味山好光寺 靖宮山好光寺  
和山山好光寺 限井山好光寺  
眼山山好光寺 大内山好光寺

一好山好光寺

○近江

妙法山好光寺 長尾山好光寺  
大津山好光寺 日 好光寺  
山 本要寺 日 本福寺

○信濃

法善山好光寺 上ノ山好光寺  
之山 蓮花寺 以山好光寺  
約場山好光寺 保素山好光寺  
水島山好光寺 飯田山好光寺  
松本山好光寺 上田山好光寺

○上野

廣布山好光寺 安中山好光寺  
那波山好光寺 入山好光寺  
山好光寺

○中野

南中山好光寺 法光山好光寺



長久山妙法寺 萬葉山法隆寺

目録 五州

光徳山春勝寺 宝塔山妙法寺

法光山妙法寺 金津法昌寺

他意法蓮寺 金津白雲寺

妙法山妙法寺 妙光山法華寺

他意山法親寺 他意山法親寺

新井田中法寺 桑村止法寺

高野山妙法寺 神目妙法寺

白河山妙法寺

〇法隆寺

法隆寺日親寺 法隆寺久遠寺

妙法山法隆寺

〇若狭

後河山妙法寺 向山山法隆寺

高野山妙法寺 小湊山妙法寺

高野山法隆寺 高野山妙法寺

〇越前

日足山妙法寺 大谷山法華寺

瑞雲山妙法寺 敦賀山中法寺

九尾山法隆寺

〇加賀

壽福山法隆寺 法生山中法寺

瑞雲山妙法寺 玉樹山法隆寺

妙法山法隆寺 妙法山法隆寺

久保山法隆寺 富林山法隆寺

法光山法隆寺 寺前山法隆寺

車村山法隆寺 日方山法隆寺

日光山法隆寺 重法山法隆寺

〇能登

金粟山法隆寺 寺前山法隆寺

山形山法隆寺 妙法山法隆寺

かき野山法隆寺 法光山法隆寺

波佐山法隆寺 法光山法隆寺

〇越中

法光山法隆寺 妙法山法隆寺

法隆山法隆寺 妙法山法隆寺

清原山宮徳寺 之息、妙法寺  
富山、妙法寺 之息、法光寺  
弘眼山、中層寺 本興山、法光寺  
海島山、大徳寺 法光山、妙法寺

○戒後

長久山、中成寺 法皇山、妙法寺  
新山、妙法寺 南田山、妙法寺  
吉祥山、口朝寺 全津、妙蓮寺  
海岸山、妙法寺 聖興山、法福寺  
三井山、法徳寺 守常山、法福寺  
多田、長光寺 其良寺

○石見

津和野、法光寺 吉田、妙法寺  
法田、妙法寺 二ノツ、高光寺  
日 妙法寺 善田、妙法寺

○佐渡

蓮華山、妙法寺 妙法寺、中成寺  
極楽山、根中寺 法光山、妙法寺

松之山、安光寺 昌光山、安隆寺  
日朗山、中光寺 松崎山、中光寺  
善光山、妙法寺 法光山、妙法寺  
相川、五郎寺

○丹波

宝篋山、中成寺 小村、日山院  
妙法山、中成寺 善光山、法光寺  
日出山、中成寺 雲霧山、法福寺  
大所、善光寺 下八木、善光寺

○丹波

殿山、妙法寺 大森山、法興寺  
河辺、妙法寺 平田村、妙法寺  
宇川、妙法寺 高津、法光寺

他馬

善光山、妙法院 一乘山、法光寺  
善光山、中成寺 加保、法光寺  
法山、妙法寺 日 中成寺

○因幡

法園山、日香寺 大徳山、善光寺  
善光山、中成寺 新法山、善光寺

多瓦ノ一末寺 日 法心寺  
日 孝母寺 日 本津寺

○伯耆 法苑八ノ

常須山感壽寺 赤子 美誠寺  
日 美成寺 日 本直寺  
日 妙善寺 横津、美相寺  
法苑寺村中經寺 具坂、正法寺  
河原保解法寺 八橋村、法華寺

○出雲

長昌山天壽寺 慧運山慈壽寺  
今市、蓮經寺 三刀、妙法寺  
松江、久成寺 廣勝、本成寺

○猛虎

備法山清光寺 静明山美蓮寺  
山崎、妙法寺 日 妙法寺  
云木、本要寺 唯續、田光寺

○員佐

金福山妙福寺 長昌山妙法寺  
さか 崇直寺 延壽山本妙寺  
倉敷、壽林寺 法山、妙法寺

河田、本妙寺 久世、真言寺

○備前

佛住山蓮昌寺 誓林山妙善寺  
大赤山妙林寺 同山の妙勝寺  
大溪の妙覺寺 長山、妙法寺  
法山の普光寺 長山、正福寺  
基於、新洲寺 日 成教寺

○備中

具足山妙平寺 啓運山妙隆寺  
廣成、不渡院 経村、法正院  
縮着、妙法寺 平川、普光寺  
花尾、立城寺 松山、巨福寺

○備後

垂量山妙安寺 光照山普光寺  
妙性山妙臥寺 妙光寺  
尾乃、妙實寺 那田、妙法寺  
言教、妙法寺 水谷、普光寺

○安藝

白雲山因宗寺 廣島、日通寺

經山山頂寺 廣西、南岳寺  
廣德、妙鳳寺 日 長久寺  
日 妙法寺 才、市、長、寺  
廣德、本、寺、寺

○周路

天長山、法華寺 山、山、寺、蓮、寺  
若、山、法、華、寺 日 香、法、寺  
日 善、門、寺 秋、阿、欽、明、寺

○長門

形、山、法、華、寺 珠、山、妙、法、寺  
右、田、本、園、寺 秋、德、寺、光、寺  
香、浦、寺、海、寺 山、山、寺、法、華、寺

○紀伊

妹、背、山、養、珠、寺 香、法、山、法、華、寺  
白、雲、山、觀、音、寺 香、法、山、法、華、寺  
吹、上、寺、本、光、寺 廣、光、寺  
南、德、山、妙、法、寺 蓮、經、寺  
善、順、山、蓮、心、寺 香、法、山、法、華、寺  
妙、心、山、法、華、寺 石、法、山、法、華、寺  
安、善、山、法、華、寺 珠、山、法、華、寺

經、山、山、頂、寺 長、流、山、法、華、寺  
善、山、宣、經、寺 吹、上、寺、妙、法、寺

○阿波

吉、得、山、法、華、寺 香、法、山、法、華、寺  
法、山、法、華、寺 日 妙、法、寺  
日 妙、法、寺 日 本、寺、寺  
日 本、寺、寺 月、寺、山、法、華、寺

○淡路

大、孫、山、妙、法、寺

○備前

善、德、山、妙、法、寺 衆、妙、山、法、華、寺  
久、保、山、法、華、寺 本、門、寺  
秋、山、の、法、華、寺 香、法、山、法、華、寺  
平、木、妙、法、寺 香、法、山、法、華、寺  
丸、龜、寺、法、華、寺 日 本、寺、寺

○伊豫

妙、心、山、法、華、寺 西、山、法、華、寺

玉安村本町寺 振来ノ田中寺  
今法ノ妙正寺 松山ノ妙法寺  
日 本寺寺 日 延立寺  
新田村瑞雲寺 三溪山金寺  
○土佐

天香山妙正寺 神力山要法寺  
有岳山ノ妙法寺 甲海ノ寶福寺  
常毛ノ妙法寺 中村ノ妙法寺  
秋山ノ院田寺 上田村ノ本正寺

○龍泉  
修昌山法眼寺 長光山香光寺  
持多ノ秀正寺 日 妙興寺  
福多ノ大通寺 日 徳光寺

○龍泉  
依久島ノ妙蓮寺 一色村ノ妙光寺  
久島寺ノ妙法寺 柳川ノ妙法寺  
日 妙法寺 日 龍光寺

○豐後  
中津ノ大法寺 成乃山印光寺  
大原ノ妙法寺 志津山大法寺  
小倉ノ志津寺 日 蓮光寺

日 妙法寺 日 成就寺

○豐後  
豐後山法心寺 日 持城下法音寺  
一色山觀蓮寺 府中ノ智光寺  
許集ノ妙法寺 高田ノ左仙寺  
佐伯ノ成寺 府内ノ淨妙寺

○肥前  
松尾山光徳寺 美津山印經寺  
野林山本蓮寺 常須山印光寺  
石見山妙法寺 志津山淨光寺  
大村ノ妙法寺 日 自持寺  
佐賀ノ妙法寺 日 妙法寺

○肥後  
登星山本妙寺 妙光山蓮法寺  
壽福山妙法寺 泉福山本成寺  
宇布 法苑寺  
言雲 本光寺 持井 妙法寺  
川瓦 法雲寺 徳本 法蓮寺  
吉原山 本光寺 日 本妙寺  
熊本 妙法寺 日 妙法寺

坪井ノ巻  
山家月形ノ

○日向

日智ノ巻

半巻

運多ノ巻

○大隅

藤村ノ巻

○慶應十六ノ巻

藤原ノ巻  
日  
公巻

高田年代記

明治十四年一月六日出版御届

同 年同月 刻 成

定價金拾五圓

編輯者 宇喜多小十郎

京都府平民

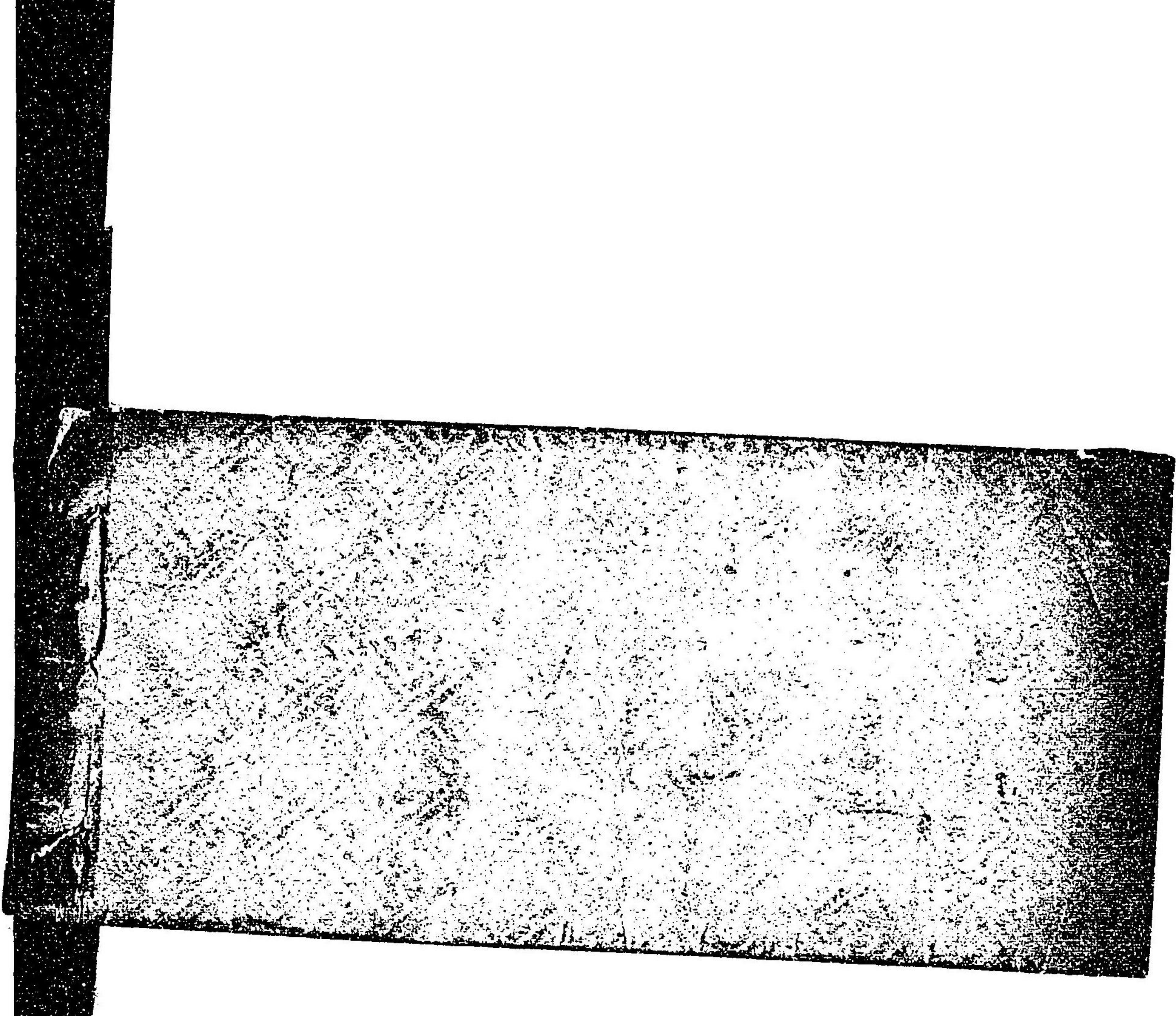
訂正者 乙 葉俊次郎

下京區第四組三文字町  
二百三十一番地

京都府平民

出版人 村上勘兵衛

上京區第九組雲花院前町  
四百五十二番地



館書圖京東  
 函一七 門九  
 架一 部七  
 號 類

特58  
 272

020147-000-2

特58-272

本化高祖年代記

宇喜田 小十郎 / 編

M14. 1

ABH-0361

